対話能力と読みの力を高める国語科学習指導の在り方

―文学的な文章に「ジグソー学習」を取り入れて―

尾道市立因北小学校　山﨑　千佐

1　実践の趣旨

因北小学校では，４年前より国語科を研究科目に設定し，研究主題を「生きてはたらくことばの力の育成」，副題を－「言語技術」を活用した文学的な文章の授業改善を通して－とし，文学的な文章の授業を研究してきた。その主題に対しての具体的な取組みの方策として，「活動目標」を位置づけた単元構成→読みを深めるための「対話活動」→「言語技術」の効果的な導入→「文学体験」を深める対話活動と研究主題に位置づけ４年間研究を進めてきた。

現在担任している６年生は，文学的な文章の授業において，４年生時から学級を解体したジグソー学習を経験してきた。この学習形態を取り入れた理由は，1つの視点で共に学び合う，そして1つの視点で学んだことを違う視点で学んだ別のコースに伝え合う，そのことが自分が経験できなかった登場人物の視点を知り，読みを深めていくことができる，このことが学ぶ必然性をよび，自分の学びに責任を持って授業に臨むことができるからである。

２Ｃ３Ｔ（２クラスを３グループに編成して３人の教師で指導する授業形態）によるジグソー学習（この学習では，子どもたちが，ジグソーグループと課題別ｸﾞﾙｰﾌﾟと呼ぶ二つのｸﾞﾙｰﾌﾟに所属し，それぞれの仲間と交流を密にして学習するところに特徴がある。）では，物語をコース別に多様な視点で読みながら，コース間の交流を通して読みを深める学習をしてきた。このような授業形態に児童は大変意欲的に取り組み，叙述を根拠に場面の様子や人物の心情を読み取る力がついてきた。また，読みの交流の場面では，付箋紙，カード，板書などの表現方法や，「ペア対話」，「グループ対話」，「全体対話」など様々な対話形態を経験することを通して，自己の読みを表現する力もついてきた。

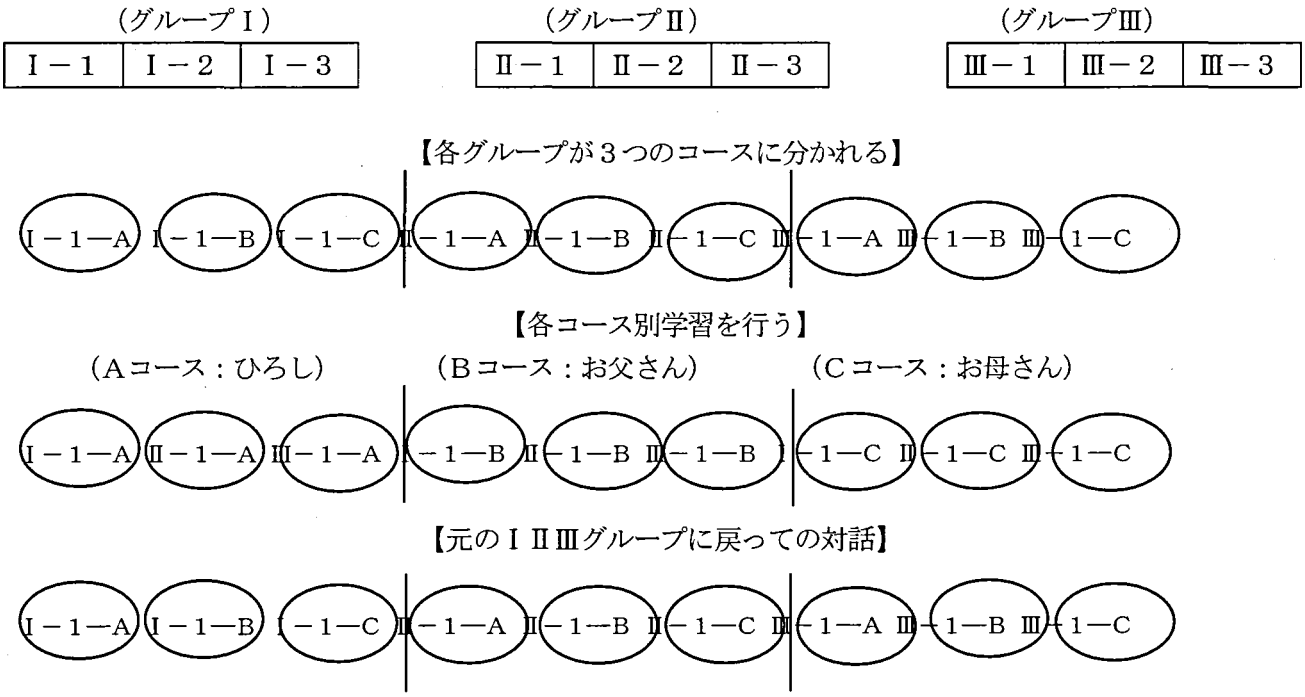
そこで，本実践では，対話能力と読みの力を高めるために，ジグソー学習に取組んだ具体的な実践についてまとめてみる。

【研究の構造図】

【ジクソー学習とは】

子どもたちが，ジグソーグループと課題別グループと呼ぶ二つのグループに所属し，それぞれの仲間と交流を密にして学習するところに特徴がある。本校では，２つのクラスを３つの課題別クラスに編成しているので，２C３T 形式をとっている。そして，それぞれの課題別コースで学んだことを，またもとの学習クラス，すなわちジグソークラスに戻り，それぞれ学んだことを「対話」を持って伝え合うことを目的としている。

【２Ｃ３Ｔジグソー学習の流れ】



【対話能力とは：文献より】

松村賢一は，対話力とは，２つの機能の重なりである。１つは，応答性。相手を固有名詞を持つ存在として認める。しっかり向き合い，語りかける。そのことばを受けた者は，誠実な自己照合をへて応える。それを繰り返す力が第１である。２つ目は，その結果として「論理的・論理的向上」（倉澤栄吉）が図られること。すなわち，「他者とのことばのやりとりを通じて，思いや情報，考えなどを共有し，相互関係を深めたり，事柄に対する認識を高めたり，合意を形成したりする力」と定義している。

本校では，この対話活動をジグソー学習に取り入れ，自分の学んできたことを対話を持って別のコースの児童に伝え，学び合いをしている。

２　実践の概要

（１）　単元名　本に親しみ，自分と対話しよう

「カレーライス」　重松　清　作　　唐仁原　教久　絵　（光村図書６年上）

（２）単元について

本単元は，現行学習指導要領における第５学年及び６学年の「C読むこと」の目標である，「目的に応じ，内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」を受けて設定した。ここで重点を置く指導事項は，「登場人物の心情や場面についての描写など，優れた叙述を味わいながら読むこと。（ウ）」である。

本教材は，主人公「ぼく（ひろし）」の心の成長を，カレーの「甘口」と「中辛」というキーワードと，

親子げんかという日常的な出来事を通して描いた物語である。反抗期を迎えつつあるこの時期の児童は，一人称で語られる「ぼく」の心情に大いに共感を覚えることであろう。また，身近な家族関係について描かれた物語であるため，主人公の「ぼく」だけではなく，視点を変えて，他の登場人物である「お父さん」や「お母さん」の立場で読むことを通して，自己と家族との関係を見つめ直す機会にもなると考える。

このような人物の関係に視点を当てた読み方は，改訂学習指導要領において新しく示されている「C読むこと」の指導事項「登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。(エ)」にもつながるものである。

（3）　単元の目標

○登場人物の相互関係や心情を叙述に即して読むことができる。

○該当学年に配当されている漢字を書き，文脈に沿って表意文字としての漢字を適切に使うことができる。

（4）活動目標

『家族の誰かになって「私物語」を書こう』

「カレーライス」に登場する誰かの視点になって物語を読み深めることによって，模擬家族の体験をし，体験したことをもとに，自分の家族の誰かになって「私物語」を書く。

（5）指導計画（全５時間）

学　習　活　動	授業形態	文学体験	対　話	言語技術
①全文を読み，あらすじをつかむ。	２Ｃ３Ｔ **ＩＩＩコース**	参加	自己内	再話
②読みの中心課題を設定し，一人読みをする。 「あやまらなかったのに，どうして仲直りができたのだろう。」	２Ｃ３Ｔ **ＩＩＩコース**	参加	自己内	
③物語の前半部分を読み，登場人物の視点で交換日記をする。 「どうしてあやまらなかったのだろう。」 ↓ ↓ ※あやまらなかった理由をキーフレーズで表す。	２Ｃ３Ｔ **ＡＢＣコース** Ａ（ひろし） Ｂ（お父さん） Ｃ（お母さん） ↓ **ＩＩＩコース**	同化 対象化	自己内 グループ 全体	視点を変える 問答ゲーム
④物語の後半部分を読み，登場人物の視点で交換日記をする。 「あやまらなかったのに，どうして仲直りができたのだろう。」 ↓ ↓ ※仲直りできた理由をキーフレーズで表す。	２Ｃ３Ｔ **ＡＢＣコース** Ａ（ひろし） Ｂ（お父さん） Ｃ（お母さん） ↓ **ＩＩＩコース**	同化 対象化	自己内 グループ 全体	視点を変える 問答ゲーム
⑤全体でコース別学習の交流をし，自分の体験を振り返りながら感想をまとめる。	２Ｃ３Ｔ 一斉	典型化	全体 自己内	視点を変える 問答ゲーム

ワークシート１
「再話」シートを使って全文のあらすじをつかむ。

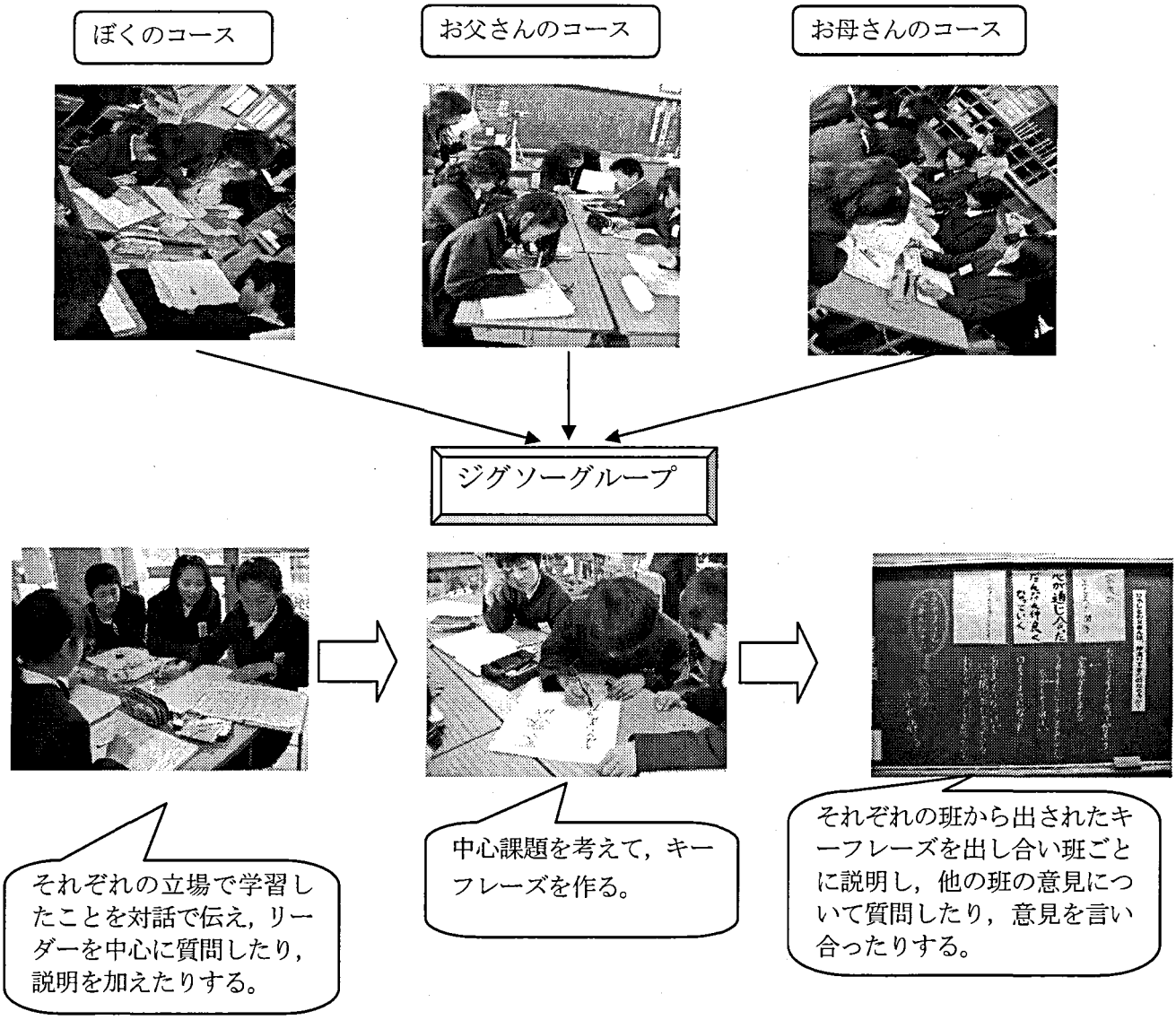
ワークシート１
中心課題について考えさせる。

ワークシート２，３
各ジクソークラスで学んできたことを，ＡＢＣの立場で意見を出し合い，中心課題に対してキーフレーズを作る。

ワークシート４
視点を変えて「私」に対して手紙文を書くことによって典型化を図る。

（6）授業の様子

〔課題別グループ〕（コース別）



今回の授業では，「ぼくのコース」，「お父さんのコース」，「お母さんのコース」という3つの登場人物に視点を当てて，課題別グループを作った。コースで学んだことをジグソーグループに帰り，伝え合い自分たちの視点では読めなかった，考えられなかったことを深め合っていく。この3つの視点は，いわば模擬家族である。主人公と同じ6年生の視点で書かれた物語を「お父さん」や「お母さん」の立場で読み，それぞれの視点について学んだことを対話で伝え合う。ここで学び合いと対話が成立するのである。そして，伝え合ったことを1つの「キーフレーズ」に作り上げることで，他者の心情を読み，考えることができたようだ。

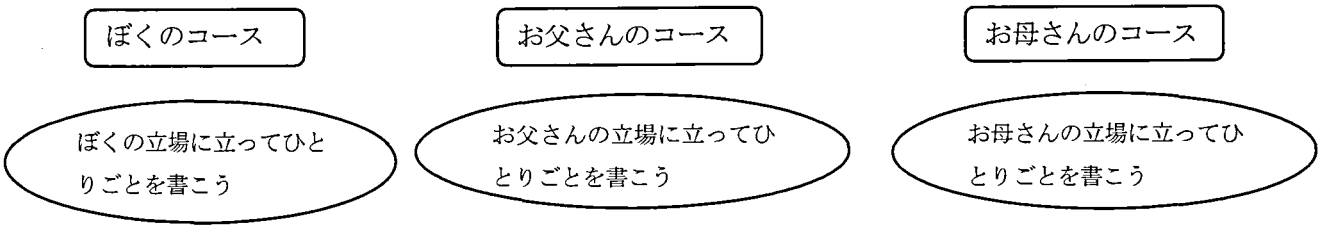
今回の授業の中心課題は，「あやまらなかったのに，どうして仲直りができたのだろう。」を追求してきた。本文を前半部分と後半部分に分け，ジグソー学習を行った。前半部分の課題を「どうしてあやまらなかったのだろう。」，後半部分を「あやまらなかったのに，どうして仲直りができたのだろう。」として考えさせた。

【④　後半部分のジグソー学習　授業の流れについて（例）】

①　課題別グループでの学び

「あやまらなかったのに，どうして仲直りができたのだろう。」について考え，ワークシートに自分のコ

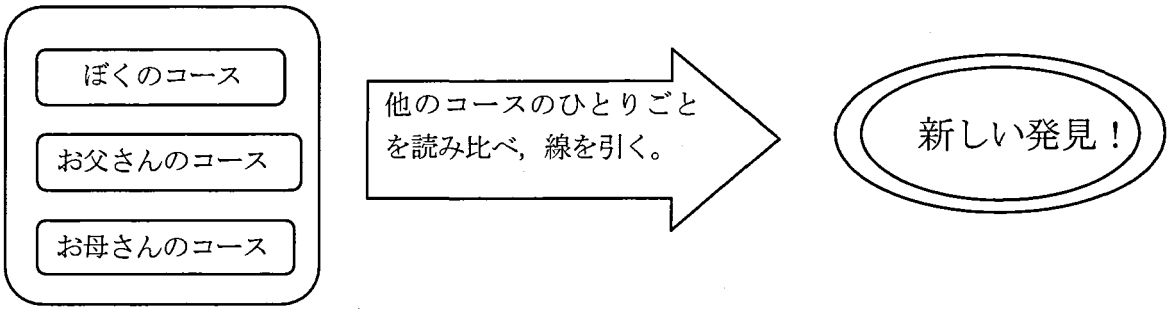
ースの登場人物に立ってひとりごとを書く。



自分の書いた意見を班で回し読みをする。回し読みをする中で，書き足りない部分や新たに付け加えたい意見があれば書き加える。そうすることによって自分のコースの意見を充実させることができる。班の友だちや自分の意見を持ち，〇〇コースの代表者としてジグソーグループで意見を伝えることができるのである。

② ジグソーグループでの学び

ジグソーグループに帰ってきた児童は，登場人物の３つの視点を学習してきている。今回の場合は，模擬家族での話し合いがなされた。児童は，課題別で書いてきた別の視点のひとりごとを読み合う。自分の視点になかった新しい考え方を見つけた場合，線を引いて立場を書いて返した。そうすることによって，新しい学びが芽生えた。



③ 「３人の人間関係をキーフレーズで表わしてみよう」の課題に迫る。

それぞれの立場で学んできたことを３人の立場でキーフレーズに表わしていく。まず，自己内対話を行う。そして班員に，なぜそのようなキーフレーズにしたのか理由とともに伝える。ここでグループ対話が生まれる。班対話で出たそれぞれ個々のキーフレーズを班としてまとめていく。そこに立場の違いがある中で３方向からのキーフレーズを生み出すことで新しい学びが生まれる。これがジグソー学習で深まった学びである。

④ 全体対話の中で

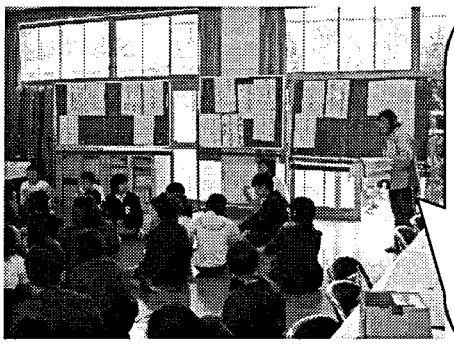
各班で話し合って出てきたキーフレーズを全体に出し発表する。ここで全体対話が生まれる。お互いにキーフレーズを聞き合う中で質問し合い疑問をぶつけ合う。質問されること，質問することによって自分の考えが整理できるようだ。

キーフレーズの変化

(前半　ごちゃごちゃの関係　　→後半　三人が思い合っている関係)
(前半　遠いようで近い関係　　→後半　いつの間にか心が通じ合っている関係)
(前半　気持ちを素直に表わしにくい関係　　→後半　心が通じ合っていく関係)
(前半　なかなかすっきりできない関係　　→後半　家族がまとまった関係

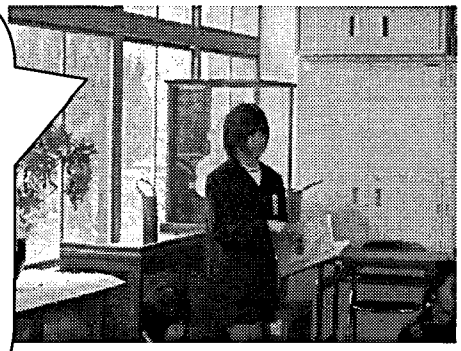
【⑤ 学年全体でコース別学習の交流をする】

単元の５／５最後の時間，それぞれ学び合ってきたことを学年全体（会議室）で交流した。最後のキーフレーズを各班（９つの班）で発表しお互いに質問した。



それぞれの学習のキーフレーズを板書と共に担当した指導者が説明をする。

キーフレーズについての質問は，その班のリーダーがまず答え，付け加えがあった時には，班員が答える。

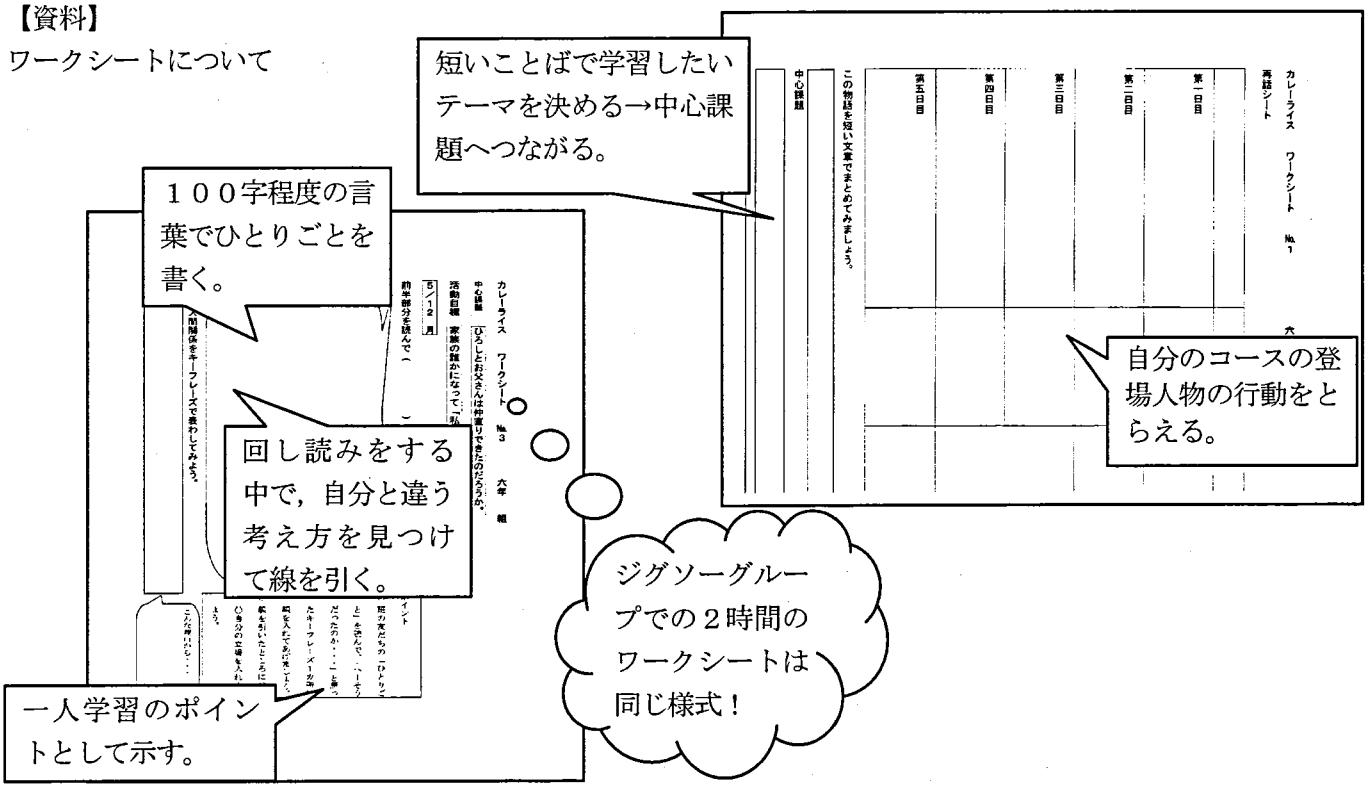


3　成果と課題

○ジグソー学習が始まったころは，学んだことを伝えなければならない，対話をしなければならないと「型」にはまった対話がみられた。ジグソー学習も３年目になると，自然な対話が見られるようになってきた。

○児童は，ジクソー学習に関するアンケートの中で，「別のクラスの人と学習ができ，いろんな意見が聞き合える」「深く勉強できるし，班のみんなで話し合ってできるから」と多くの児童が好きな理由を述べている。

●ジグソー学習を苦手としている児童は，「自分のペースで学習しにくい」「先生が変わるからわかりにくい」という意見を持っている。今後は，対話の質の向上を目指し，ジグソー学習することで，読みがどのように深くなっていったのか，指導者自身の評価のあり方について研究を深めていきたい。

【資料】

ワークシートについて